

くらし

過去5年間に勤務先で育児に関する制度を利用しようとした男性の26.2%が、育児休業などを理由にした嫌がらせ「パタニティ・ハラスメント(パタハラ)」被害の経験があると回答していたことが、厚生労働省の調査で分かった。上司による妨害行為が多くみられ、経験者の42.7%が育児の利用を諦めた経験があった。

男性の育児取得を促進する改正育児・介護休業法も先週成立したが、改めて男性が育児で休みやすい職場の環境づくりの難しさが浮き彫りとなった形だ。

調査は昨年10月、インターネットで実施。自営業や役員、公務員を除いた500人が回答した。調査によると、過去5年間で一度でもパタハラを受けたのは26.2%。企業規模によって差があ

上司ら妨害 4割利用諦め

り、従業員千人以上だと21.7%だったのに対し、99人以下は31.1%と約10倍の開きがあった。

複数回答で誰からハラスメントを受けたかを尋ねたところ、役員以外の上司が66.4%で最多。役員34.4%、同僚23.7%、部下13.0%と続いた。

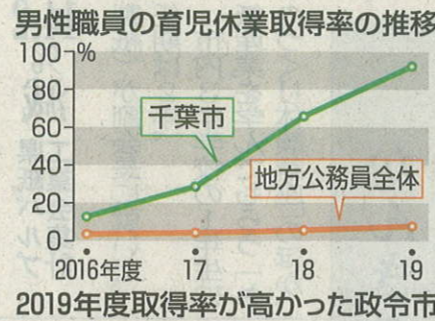
内容としては、育児制度などを利用させなかったり取るのを邪魔したりする言動のほか、人事考課での不利益な評価やほめかしなどが目立った。

ハラスメント経験者が、利用を諦めた制度としては育児が42.7%で最も多く、残業や深夜業務の免除・制限34.4%、短時間勤務や始業時間の変更が31.3%に上った。

パタハラ被害 4人に1人

男性の育休取得向上へ

政府が男性公務員の育児休業取得率向上を掲げる中、千葉市は2019年度、政令市で断トツの92.3%を達成した。数字を押し上げたのは職員に「休まない理由」を聞き取るという発想の転換。子育て世代の市長によるトップダウンや管理職への研修で仕事と家庭の両立への意識付けを進めた。



千葉市	92.3%
福岡市	20.2%
北九州市	19.3%
さいたま市	18.2%
新潟市	16.2%

※千葉市や総務省の資料に基づく

千葉市9割超 断トツ 発想転換「休まない理由」調査

三菱UFJリサーチ&コンサルティングの調査では、男性が出産や育児のために休暇を取らなかった理由では、「職場が取得しづらい雰囲気だった」「収入を減らしたくない」も多かった。千葉市は理由が分かれば、収入減には育休手当や互助会の支援金を案内できると説明する。

19年度に都道府県で男性育休取得率1位だったのは鳥取県の26.1%で、18年度の7.3%から大幅に増えた。特に伸びたのは警察部門。1歳未満の子を育てる男性職員に、可能な限り2週間以上休暇を取得するよう通知を出した結果、18年度の6.0%から56.5%になった。県の担当者は「数年前は0%で、取れるものという意識さえなかったが、取得を促すトップの本気度が伝わったのではないかと話す。愛媛県は、1.5%で最下位だった。

政府は20年度までに男性地方公務員の育休取得率を全体で13.0%に引き上げると掲げたが、19年度は8.0%にとどまった。男性の子育て参加を支援するNPO法人ファザリング・ジャパンの安藤哲也代表理事は「育休の期間や給付の制度は世界でも最高水準。育休を取っても職場が回ることや男性育休の意義を伝え風土を変えることが必要だ」と指摘した。

日本で「産み育てにくい」6割

子どもを産み育てやすい国だと思うか

国	そう思う	そう思わない
日本	38.3%	61.1%
フランス	82.0%	17.6%
ドイツ	77.0%	22.8%
スウェーデン	97.1%	2.1%

※内閣府の国際意識調査、無回答を除く

内閣府の国際意識調査で、日本人回答者の6割が「子どもを産み育てにくい国」と感じていることが明らかになった。フランスやドイツ、スウェーデンに比べて育てにくいとする割合が突出して高い。子育てを支える政策が各国に比べて不十分だと多くの人が感じていることが背景にありそうだ。

調査は5年ごと。今回は2020年10月〜21年1月に4カ国の20〜49歳の男女を対象に実施した。日本人は2500人、各国は千人が対象。今月閣議決定する21年版少子化社会対策白書に結果を盛り込む。

調査では「自国が子どもを産み育てやすい国だと思うか」と問う

と、日本は「そう思う」38.3%に対し「そう思わない」が61.1%と多数を占めた。各国では「そう思う」がスウェーデン97.1%、フランス82.0%、ドイツ77.0%と日本を大きく上回った。

産み育てやすい国と思う理由(複数回答)では、日本は「地域の治安がいいから」が最多。一方、フランスやドイツは「妊娠から出産後までの医療が充実」「保育サービスが充実」が、スウェーデンは「教育費の支援や軽減」が多かった。日本は3カ国に比べ、こうした子育て支援の項目の割合が低かった。

内閣府国際調査

星屑

ステージ1 新星(10)

村山由佳・作
大野博美・画

-18-

「どうして二組なんですか」
「や、さっきマスターに訊いたら、俺のイチ推しのバンドは三番目に出るんだとさ。それさえ終わったら、俺も一緒に帰るから。な、せっかくこゝまで来たんだからさ」
「でもあの、」
ほんとうに気分がすべれないのだと言おうとしたのだが、
「だいち、ホテルまでだとタクシー代がけっこうかさむぞ」
峰岸は、脅しをかけるように言った。
「お前、先に帰るってんなら自腹で出せよな」
「そんな……」
それは困る。そうでなくとも今月は、学生

てかがみ

(松山市 遠藤 歳・パート)

周囲から入ったよれば〇〇病だとか、集団接種だとか、情報交換をより効率の良いたのではないかと。今までも以上に乗りに乗らなく

ワクチン接種

新型コロナウイルスの接種のた。受け付け開始スマートフォンをしてみたら、レスの入力のはず飛ばしたら、なくなった。2度ころでつまずく。娘に頼んで完了したのが、日目の夕方だった。そのためか1日は7月16日とまった。2回目わるのは8月だとか感染せずに8月がとまれるのはなぜか行列のできる外で2〜3時間気だった客が店れ、席に着いて20〜30分いらす人が多いといた心理に似ていない。



び上がり、男が三人現れる。先ほどまで、桐絵にはひとまなかつた。再び店内が暗くなったのは10分ほど、男が三人現れる。先ほどまで、桐絵にはひとまなかつた。